

| 鳥羽商船高等専門学校 | | 開講年度 | 平成27年度 (2015年度) | 授業科目 | 内燃機関学 |
|---|--|------|----------------------|--|---------------------|
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 科目番号 | 0077 | | 科目区分 | 専門 / コース必修 | |
| 授業形態 | 講義 | | 単位の種別と単位数 | 履修単位: 2 | |
| 開設学科 | 商船学科 | | 対象学年 | 3 | |
| 開設期 | 通年 | | 週時間数 | 前期:2 後期:2 | |
| 教科書/教材 | 長谷川静音、「船用ディーゼル機関教範」、成山堂 | | | | |
| 担当教員 | 今井 康之 | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| 1. 内燃機関について機関単体だけでなく、船舶推進システムとして概要が説明できる。 2. 他の熱機関と比較し、内燃機関について説明でき、内燃機関の種類が比較できる。 3. 内燃機関の主要固定部が説明できる。 4. 内燃機関の主要運動部が説明でき、関連する計算式を導き算出することができる。 | | | | | |
| ルーブリック | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | | 標準的な到達レベルの目安 | | 未到達レベルの目安 |
| 評価項目1 | 内燃機関について、他の熱機関と比較し説明ができる。 | | 内燃機関の種類が比較説明できる。 | | 内燃機関の基礎原理、種類がわからない。 |
| 評価項目2 | 内燃機関の主要固定部に関わる現象について説明出来る。 | | 内燃機関の主要固定部について説明出来る。 | | 構造部品がわからない。 |
| 評価項目3 | 内燃機関の主要運動部に関わる現象について説明出来る。 | | 内燃機関の主要運動部について説明出来る。 | | 構造部品がわからない。 |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 概要 | ・機関学概論やこれまで学んだ内燃機関だけでなく、関連機器との関係についても学習していきます。知識を積み重ね、総合的に考察できるように、復習しておくこと。 | | | | |
| 授業の進め方・方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・第3級海技士（機関）の内容理解を促進するため、5級程度の内容から1級の範囲も取り扱うことがあります。基本的事項をしっかりとおさえ、授業で習う項目は文章で説明できるように整理すること。 ・課題は期限を厳守すること。 ・授業は積極的に参加し、傍聴者とならないよう努力すること。出席とともに評価します。 ・定期的にノートを確認します。黒板だけでなく、コメントもノートにとること。 | | | | |
| 注意点 | 計算や燃料に関する事項も取り扱うため、数学、化学の内容をしっかりと復習し、わからないところは自ら解決しておくこと。また、再試験は行わないことがある。 | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| | | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | |
| 前期 | 1stQ | 1週 | 熱機関及び内燃機関の概要 | エネルギー、仕事など基本概念が説明でき、熱機関が比較できる | |
| | | 2週 | ディーゼル機関の付属装置 | 船内プラントの概要が説明できる | |
| | | 3週 | ディーゼル機関の付属装置 | 関連機器と機関の関係が説明できる | |
| | | 4週 | 内燃機関の分類と特徴 | 外燃機関との違い、内燃機関の種類、作動流体について説明できる | |
| | | 5週 | 内燃機関の種類と作動原理 | ガソリン機関とディーゼル機関が見分けられる | |
| | | 6週 | 内燃機関の種類と作動原理 | 2サイクル機関と4サイクル機関の作動原理が図示できる | |
| | | 7週 | 内燃機関の熱サイクル基礎 | 熱勘定図、低位発熱量、オットー・ディーゼル・サバテサイクルが説明でき、該当機関と関連づけられる | |
| | | 8週 | 前期中間試験 | 7週までの説明ができる | |
| | 2ndQ | 9週 | 試験返却、出力 | 図示・制動・軸・プロペラ・推力・正味馬力が説明できる | |
| | | 10週 | シリンダ | 種類、特徴、変形、腐食について説明できる | |
| | | 11週 | シリンダ | 冷却、潤滑、取扱い、故障について説明できる | |
| | | 12週 | シリンダヘッド、シリンダボルト | シリンダヘッド、シリンダボルト | |
| | | 13週 | フレーム、クランクケース | 種類、特徴が説明でき、事故要因が関連づけられる | |
| | | 14週 | ベッド、機関台、タイロッド | 機関にかかる力と機関を支える仕組みが説明できる | |
| | | 15週 | 定期試験 | 14週までの説明ができる | |
| | | 16週 | 試験返却、解説 | 期末試験までの内容が説明出来る | |
| 後期 | 3rdQ | 1週 | 主軸受、軸受メタル | 特徴と種類が説明できる | |
| | | 2週 | 引張りボルト | 構造材料の特徴と関連づけ説明できる | |
| | | 3週 | ピストン | 種類、特徴、変形について説明できる | |
| | | 4週 | ピストン | 冷却、取扱い、故障について説明できる | |
| | | 5週 | ピストンピン、ピストンリング | 種類構造、特徴とともに、関連異常現象が説明でき、異常現象に伴う現象より、原因が推測できる | |
| | | 6週 | 連接棒、クロスヘッド、ピストン棒 | 構造が理解でき、違いが比較できる | |
| | | 7週 | 内燃機関の機械力学 | ピストンの運動力学を理解し、クランク角よりピストン位置や図示出力が計算できる | |
| | | 8週 | 後期中間試験 | 7週までの説明ができる | |
| | 4thQ | 9週 | 試験返却、クランク軸 | 構造を理解し図示できるとともに、ディフレクション、潤滑、クランク軸に働く応力、破損について説明できる | |
| | | 10週 | ねじり振動、危険回転数 | 現象を理解し、説明できる | |
| | | 11週 | バランスウェイト、フライホイール | 役割が説明でき、力学的観点から比較できる | |

| | | | |
|--|-----|-------------|---|
| | 12週 | 弁連動装置、吸排気装置 | 各部名称、連動機構が説明でき、吸排気装置が比較できるとともに、取扱や故障について説明できる |
| | 13週 | 内燃機関の掃気 | 2サイクル機関、4サイクル機関の掃気方法が説明できる |
| | 14週 | 内燃機関の掃気 | ジャンプ式、ループ式、ユニフロー式を比較し図示できる |
| | 15週 | 後期期末試験 | 14週までの説明ができる |
| | 16週 | 試験返却、解説 | 主要運動部が説明できる |

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

| 分類 | 分野 | 学習内容 | 学習内容の到達目標 | 到達レベル | 授業週 |
|----|----|------|-----------|-------|-----|
|----|----|------|-----------|-------|-----|

評価割合

| | 試験 | 発表 | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | その他 | 合計 |
|---------|----|----|------|----|---------|-----|-----|
| 総合評価割合 | 70 | 15 | 0 | 5 | 10 | 0 | 100 |
| 基礎的能力 | 20 | 5 | 0 | 0 | 5 | 0 | 30 |
| 専門的能力 | 50 | 5 | 0 | 0 | 5 | 0 | 60 |
| 分野横断的能力 | 0 | 5 | 0 | 5 | 0 | 0 | 10 |